UR PRESS

UR都市機構の情報誌［ユーアールプレス］

2012
vol.30

［特集］
まちが応援する子育て

［巻頭インタビュー］
辻井いつ子
子どもの才能を引き出すために

10月は住生活月間

街に、ルネッサンス

UR都市機構

みんなで止めよう温暖化
「UR都市機構」チーム・マイナス6%

再生紙を使用しています

UR
UR都市機構の情報誌［ユーアールプレス］
PRESS
2012
vol.30

CONTENTS

1 特集
まちが応援する子育て

3 ［巻頭インタビュー］
子どもの才能を引き出す子育て
辻井いつ子さん

9 コソダテUR
親子にやさしいまちづくり

10 かわつるグリーンタウン松ヶ丘
子育てを孤独にしない人と人とをつなげる取り組み

13 ハートアイランド新田
働くお母さんを応援 0歳から小学生まで預かります

15 **全国に広がるURの子育て支援**

18 URからのお知らせ
「全国団地景観サミット2012」作品募集

19 文豪の愛した街
池波正太郎［浅草・本所・両国］

21 クロスワードパズル&プレゼント

22 ユーアール・リサーチ

表紙はハートアイランド新田（写真：的野 弘路）

季刊「ユーアールプレス」
vol.30（2012年 8月）

発行　独立行政法人都市再生機構
〒231-8315
神奈川県横浜市中区本町 6-50-1
横浜アイランドタワー
Tel. 045-650-0881 / Fax.045-650-0889

編集・制作　日経BPコンサルティング
デザイン　ボールドグラフィック
印刷　大日本印刷

※1・2ページの写真は「全国団地景観サミット」応募作品

［特集］

まちが応援する子育て

少子化に歯止めをかけようと、政府や民間で様々な取り組みが始まっている。UR都市機構では、「まちづくり」の視点から子育て支援に取り組む。住民や自治体、NPO法人、民間企業などと協力し、地域全体で子育てを応援できるような仕組みづくりを目指している。地域コミュニティーに期待されることは何か――。

「巻頭インタビュー」

子どもの才能を引き出す子育て

辻井いつ子

Itsuko Tsujii

ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝したピアニスト辻井伸行さん。世界の観客を魅了する伸行さんの演奏は、母・いつ子さんとの二人三脚で築き上げられたものだ。伸行さんを、世界のピアニストとして育て上げたいつ子さんに話を聞いた。

写真＝矢幡英文
取材・文＝船木麻里

つじい いつこ
1960年生まれ。短期大学卒業後フリーのアナウンサーとして活躍、86年に結婚。88年に生まれた長男・伸行氏が生後まもなく全盲と分かり、絶望と不安のなか手探りで子育てをスタートする。2009年、第13回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで伸行氏は見事日本人初の優勝を果たした。著書に『今日の風、なに色?』『のぶカンタービレ!』『親ばか力〜子どもの才能を引き出す10の法則〜』（いずれもアスコム刊）。

© Yuji Hori
伸行さんはプロのピアニストとして国際的な演奏活動に挑んでいる

息子のはじめてのうれし泣きに自らも涙を流す

「ノブユキ ツジイ」

表彰式の最後の最後で、クライバーン氏から優勝者がコールされた瞬間、会場は大歓声で湧き上がった。自分の名前が呼ばれたことに気づき、あわててステージに登る息子・伸行さんを、辻井いつ子さんは〝まるで映画のワンシーンを見るかのように〟眺めていた。

アメリカ・テキサス州フォートワースで4年おきに開催される「ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール」は、ピアノの国際コンクールとしては、ワルシャワのショパン・コンクールと双璧をなす、世界的な国際コンクールとして知られている。

2009年6月に行われた、13回目のコンクールで、伸行さんが日本人初の優勝という栄誉に輝いた。

それまで他のコンクールで賞をとったときには満面の笑みで喜びを表現した伸行さんだったが、この時は違った。大きな優勝カップを手渡された時、思わずウッと表情が崩れたのだ。

はじめて見る我が子のうれし泣き。気がつくと、人前で泣くことはめったにないといういつ子さんもまた、大粒の涙が止まらなかった。

絶望の日々を救った1冊の本との出合い

――伸行さんが生まれてすぐに、視覚障がいがあることが分かったのですね。

辻井 ええ、出産の喜びもつかの間、伸行が全盲であることが分かり、谷底に突き落とされたようなショックでした。その障がいの重さに必死に耐えながら、悶々とする毎日。育児書には〝赤ちゃんと目を合わせて微笑みかけて〟と書いてあるけど、伸行は一生目を開けることがないんだと思うといたたまれなくて――。

当時の日記は、〝こんな障がいを抱えて、それでも伸行は生きていて幸せなのか〟〝もう、毎日が辛い。何をしていても辛い〟そんな言葉でいっぱいでした。

――絶望を感じる日々のなかで、どうやって子育てを前向きにとらえられるようになったのですか?

辻井 どうしたらいいのか分からず、わらをもすがる気持ちで障がいに関する本を片っ端から読みました。でも当時は、どうやって障がいというハンディを克服して社会という枠にはめ込むか、という視点で書かれたものが多かったです。そんなとき、福澤美和さんの『フロックスはわたしの目』という本に出合い、私の気持ちのスイッチが切り替わったのです。

――どのような出合いだったのでしょうか?

辻井 視覚障がいを持っている福澤さんが盲導犬のフロックスと一緒に歌舞伎や展覧会、旅行に出かけるなど、毎日を生き生きと過ごす様子が描かれていて、福澤さんのポジティブな生き方に深い感銘を受け、勇気づけられました。

その感動をどうしても福澤さんに伝えたくてメッセージをカセットテープに吹き込んで送った

PRESENT ＊ 辻井いつ子さんの著書『今日の風、なに色?』を抽選で10名様にプレゼント。詳しくは21ページをご覧ください。

0歳
元気に誕生した
喜びもつかの間
生後15日頃。いつまでも目を開けない伸行さんに不安が募る毎日。

2歳
母の歌に合わせて
おもちゃのピアノを演奏
ジングルベルを口ずさむいつ子さんの歌に合わせて、大好きな白いおもちゃのピアノで演奏。言葉よりもピアノでの自己表現のほうが早かった。

10歳
国内のコンテストで
金賞を受賞
青少年対象のコンクールのなかでは屈指のレベルを誇る「ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会」で金賞を受賞。

13歳
佐渡裕さんとの
運命的な出会い
指揮者の佐渡裕さんに、伸行さんの演奏テープを聴いてもらったのがきっかけで交流が始まる。フランスで佐渡さんが指揮する、パリ・ラムルー管弦楽団の定期演奏会に招待され共演。

18歳
ピアニスト横山幸雄先生の
厳しいレッスン
上野学園大学に進み、世界で活躍するコンサート・ピアニスト横山先生の指導を受ける。先生の「レッスンには素材ではなく、自分で調理した状態で持ってきなさい」の言葉に、プロの厳しさを実感した。

20歳
ヴァン・クライバーン
国際ピアノコンクールで優勝
「6人のファイナリストに残れただけで十分。ここまで来ることができて本当によかった」と思っていたら、優勝という快挙。人前ではめったに泣かなかった親子が、うれし涙を見せた。

© 2009 Altré Media

「マイナスからのスタートだったけど、この子がいたから人生が広がった」

ところ、お会いできることになったのです。そして、福澤さんから「目が見えないってことに縛られないで、普通に育てればいいのよ」とアドバイスいただき、まさに目からうろこが落ちる思いでした。

生まれつき光を感じたことのない伸行にも彼なりの感覚や世界観があり、それを豊かに広げていくことができるはずだと確信しました。障がい児の子育てではなく、この子らしさを伸ばすための子育てをしよう。我が子に眠っている〝何か〟を探そう。この出合いでその覚悟ができました。

この子には音楽に対する特別な力がある！

我が子が持つ「何か」、それが音楽なのかもしれない、といつ子さんが最初に気づいたのは、伸行さんが8カ月の頃だった。

――どんなことがきっかけに？

辻井 ロシアのピアニスト、ブーニンが演奏するショパンの『英雄ポロネーズ』のCDをかけると、伸行は機嫌よく手足をバタバタさせてリズムをとるんです。ところがCDに傷がついたため、別の演奏家の同じ曲のCDを買って聴かせるとまったく反応しない。〝もしや〟と思って、再度ブーニンが演奏するCDを探して聴かせたところ、また、機嫌よくリズムをとったんです。

――伸行さんが音楽に敏感な耳を持っていることに気づいたのですね。

辻井 ええ。なんとかして伸行の笑顔がもう一度見たいという一心でやったことですが、思いがけない反応にびっくりしました。親ばかですが〝この子は、演奏家を聞き分ける耳を持っている！〟って（笑）。

通常より遅れ気味の我が子の発達。手探りでもがき続けてきた子育てのなかようやく見えた一筋の希望の光だった。その後、いつ子さんは我が子の音楽に対するわずかな反応も見逃さないようになる。

――ピアノに対しては、伸行さんはどんな反応を示しましたか？

辻井 1歳半のとき、先生が伸行を膝の上にのせて、演奏を聴かせるというスタイルでピアノのレッスンを始めました。伸行はレッスン時間になると、自分からピアノの前に這っていき、椅子につかまり立ちして心待ちにしていました。

2歳のクリスマスには、私の口ずさむジングルベルの歌に合わせて、おもちゃのピアノでメロディーを、しかも伴奏をつけて弾きました。耳で聴いた音楽を鍵盤上で拾って曲として弾けるようになっていたのです。

――それなら将来は音楽の道へ、と考えましたか？

辻井 とんでもない。私は何か一つでも伸行が自信を持てることを見つけてあげたかっただけです。レッスンを始めたのも、ピアノの音色や本物の音楽に触れれば、何か良い効果があるのでは、との思いからです。でも伸行のピアノへの並々ならぬ情熱や集中力を見るうちに、これが才能ならばもっと伸ばしてあげたいと思いました。

伸行さんが5歳の時、その才能の芽が一気に膨らむような出来事が起きた。旅行先のサイパンのショッピングモールで、ピアノの自動演奏を聴いた伸行さんは、「どうしてもあのピアノが弾きたい」とせがんだ。そこでいつ子さんはスタッフにそのピアノを弾かせてほしいと交渉したのだ。

――普通だったら「あれはダメよ」とあきらめさせるところですが？

辻井 子育てに関しては常に〝ダメもと〟で色々と挑戦してきました。この時も断られると思いましたが、〝ダメもと〟です。そうしたらすんなり「OK」って（笑）。伸行が演奏すると多くの人が集まってきて大歓声を受けました。なかには抱きしめてキスする人もいました。伸行は音楽を通して人とコミュニケーションする喜びを知り、これを機に、人前でピアノを弾くのをとても楽しみにするようになったのです。

親が子どもを信じ抜くこと

その後も、いつ子さんは伸行さんの希望をかなえるため、演奏の機会があると知ると、ためらわずにすぐ行動に移した。8歳でモスクワ音楽院の大ホールで演奏したときも、オーディションがあるという小さな新聞記事を見つけて、すぐにモスクワに電話をかけ、実現した。

――そんな行動の原動力はどこからくるのでしょうか？

2007年10月に発売したデビューアルバム『début』（avex CLASSICS）

辻井　よく分からないのですが、これができれば伸行はさらにステップアップできるし、喜ぶに違いないという根拠のない自信と、ひらめいたら〝即アクション〟という持ち前の性格からかもしれません。

モスクワの演奏の大成功で、いつ子さんは伸行さんのピアニストの可能性を確信し、音楽の道を意識する。伸行さんは期待に応えるように、国内外のコンクールで次々と受賞するようになった。

――いくら演奏が好きでも、音楽で身を立てていくのは厳しい。まして障がいを持つ伸行さんが音楽家を目指すことに不安はありませんでしたか？

辻井　不安だらけですよ。白杖（はくじょう）を使って一人で歩行する訓練よりピアノを優先させていましたし。〝これでピアノがダメなら、私の教育方針が間違っていることになる〟とは思いました。でも、次の瞬間には〝こんなにピアノが好きなのだから、大丈夫に決まっている〟って。そうやってただ夢中に突き進んだ結果、ここまで来られたのです。

我が子の〝ピアノ大好き〟を信じて、やりたいことをやらせる勇気と決断。「私は息子から人間の可能性の素晴らしさを教えられたのです」。その感慨が国際コンクールでの涙になったに違いない。

伸行さんがヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝したときの賞状を、いつ子さんは「私の子育ての卒業証書」と思っている。

――いままでの子育てを振り返って、子どもの才能を引き出すために、親にできることは何だと思いますか？

辻井　子どもの可能性を信じること。簡単に言えば子どもを信じることです。親が子どもを信じなかったら、誰が信じてくれるのでしょう。子どもがやりたいことをやらせてあげることも、子どもを信じる勇気があればこそ。子どもに意欲があるのに、親がどうせダメだからと思ってやらせないのは、子どもを信じていないからだと思います。

「親ばか」になって思いきり愛情を注いで

最近、いつ子さんは自身の子育て体験から、子育てで悩む親に向けて、講演や公式サイトを通してアドバイスをしている。

――そこではどのような質問を受けることが多いですか？

辻井　〝ウチの子はたくさんお稽古事をしているけど、何が向いているのか分からない〟という質問が多いですね。

親は固定観念ではなく、愛情の目で子どもをよく観察すれば、おのずと一番好きなことや興味のあるものが見えてくると思うのです。そうすればお子さんが何に向いているかも、気づくことができるのではないでしょうか。

さらに、「親ばか」になって思いっきり子どもをほめることで、子どもは安心して才能の芽を伸ばすことができると思います。

――子どもの可能性を信じて、才能を伸ばしてあげるには周囲の協力や環境も大切ですね？

辻井　伸行が小さいとき郊外のマンションに住んでいました。ご近所の方々に仲よくしていただき、居心地が良かったんです。子育てが終わった先輩ママも多くて、伸行をだっこしてくれたり、何かと助けてくれたり。ご近所の方の支えは心強かったですね。

もちろん、主人や私の親も非常に力を貸してくれましたが、〝遠くの親戚より近くの他人〟を実感することもありました。最近はご近所付き合いが希薄になっている傾向がありますが、子育てには周囲とのつながりが欠かせないと思います。

――最後に、ご自身の生き方のモットーを教えてください。

辻井　私は子育てで辛いとき、とりあえず今日一日を乗り越えようと思って頑張ってきました。あまり先のことを考えてもどうなるか分からないでしょ。〝今日一日を精一杯過ごす〟ほうが、気持ちがラクになります。その一日一日の積み重ねが大切だと思います。

「今日一日、目の前のことを
とにかく一生懸命乗り越えてほしい」

コソダテUR

親子にやさしいまちづくり

UR都市機構は全国の団地で、子育て世帯が快適に生活できる環境づくりを進めている。「コソダテUR」と名付けたその取り組みについて、「かわつるグリーンタウン松ヶ丘」（埼玉県鶴ヶ島市）と「ハートアイランド新田」（東京都足立区）の二つの先進事例を中心に紹介する。

文＝茂木俊輔＋特別取材班
★の写真＝大塚 俊

※本ページ写真は「全国団地景観サミット」応募作品

かわつる
グリーンタウン
松ヶ丘
（埼玉・鶴ヶ島市）

子育てを孤独にしない人と人とをつなげる取り組み

引っ越してきたばかりでなじみのないまちに子どもと2人きり。「近所に友達ができればいいな」「じっくり付き合える友達が欲しい」――。内心はそんなふうに思っていても、第一歩はなかなか踏み出せないもの。かわつるグリーンタウン松ヶ丘ではコミュニティーの活性化に向けて、団地の集会所などを活用した、住民主体による様々な取り組みが始まっている。

子育てサロン「虹の会」を主宰する柴田尚子さん。「気心の知れた人と、子どもを一緒にじっくり育てていきたい」★

2年近く前に苦悩していた自分が嘘のようだ。当時はこの団地に引っ越してきたばかりで、周囲に見知った顔は全くなかった。強い孤独感に苛まれて、泣いている娘を連れ、近所をあてもなく歩き回ったこともあった。

いまは違う。気の合う仲間も見つかり、そんなママ友と他愛のないおしゃべりに花を咲かす時間がとても楽しい。育児という共通の楽しみと苦労を共感できる間柄だから、多少の悩みはお互いに話すことで、ほとんどは解消できる。

「あのイベントに参加して本当に良かった」――。埼玉県鶴ヶ島市にあるUR賃貸住宅「かわつるグリーンタウン松ヶ丘」に住む柴田尚子さんはそう実感している。〝あのイベント〟というのは、昨年1月、地元鶴ヶ島市の社会福祉協議会（社協）がUR都市機構とともに団地の集会所で、4回にわたり開催した「パパママ爺婆養成講座」のことだ。

原風景をつくってあげたい

柴田さんは、住棟1階の掲示板に貼られた講座開催を知らせるチラシに偶然目を留めた。よく知られた保育園の園長が講師だったことから、「ぜひ聞きたい」と参加を決めた。これが地域コミュニティーへの入り口になった。

講座に参加した柴田さんは、講師の話に深く感銘を受けた。『子どもにとって原風景をつくるのが大事』『帰れる場所を持っていることが大きな支えになる』――。「話を聞いて、自分の子どもにも、そうした故郷として記憶に残るような原風景を持たせてあげたいと思いました」と、柴田さんは振り返る。

折しも、その2カ月後に東日本大震災が起きる。「子どもにとっての居場所、安心できる場所が欲しいと切実に願うようになりました」（柴田さん）。

子育てサロン「虹の会」は毎週月曜、団地の集会所を使って開かれる（左は集会所のエントランス）

集会所内部は、親子が使いやすいように改修された。オムツ交換用シートは男女両方のトイレに設置（上）。子ども用に低く置かれた洗面所のシンク（下）

昨年1月、集会所を使って開催された「パパママ鈴婆養成講座」

一方、講座を共催した社協にも一つの思惑があった。「子育て真っ最中の母親がお互いにつながりを持てる場や、孤独になりがちな親子が、子育ての経験を持つ高齢者などと自然に交流できるような場をつくれないか」と考えていたのである。「講座開催は、そうした場づくりを担ってくれるリーダーを探す目的もありました」。鶴ヶ島市社会福祉協議会主任の牧野郁子さんはそう打ち明ける。

柴田さんはその意図を素直に受け止めた。「同じ思いを持つ人と一緒に、そういう場をつくっていきたい」――。柴田さんは思いを行動に移す。

場所は、団地の集会所が用意された。子育て支援に積極的に取り組むUR都市機構は、この活動に団地の集会所を提供。さらに、親子が使いやすいよう、集会所のトイレにオムツ交換用シートを設置したり、洗面所のシンクの高さを子どもに合わせるなど、内部を大幅にリフォームした。

こうして、子育てサロン「虹の会」は昨年10月、誕生した。講座開催から約9カ月後のことだ。

じっくり付き合える良さ

「虹の会」の活動は毎週月曜午前11時から始まる。時に絵本、時にちぎり絵、時にわらべ歌、と毎回趣向を変えて、午後3時くらいまで時間を過ごす。企画運営には参加者全員が携わる。〝お客さん〟はいない。参加者の誰もが主催者だ。自ら企画運営する活動を通じ、お互いの関係はおのずと深まる。

「表面的な関係でなく、じっくり付き合える良さがあります」と、柴田さんは活動の意義をこう語る。本音で付き合うことができれば、お互いの悩みも打ち明けやすい。活動を始めた当初に思い描いていた理想の間柄だ。

6月の第二月曜は、週末に控えた父の日に向けて、画用紙と折り紙で父親の顔づくりに挑んだ。切ったり貼ったり、集まったみんなで手作業を楽しそうに続けていく。活動を通じて願うのは、子どもにとっての原風景づくりだ。

交流のための様々な取り組み

月曜の定例活動とは別に、毎月1～2回、土曜日に小さなイベントも開く。多くの人の目に付くように、集会所の屋外活動が主だ。イベント開催は、手作りのチラシを団地内の掲示板に貼って知らせる。「同じような悩みを持つお母さんたちに、どしどし参加をしてほしいと思っています」と柴田さん。

かわつるグリーンタウン松ヶ丘にはこうした子育てサロンのほかにも、地域の人同士がつながるための様々な仕掛けづくりが展開されている（12ページの記事参照）。ここで育つ子どもたちの原風景の中には、地域の人たちが築き上げる多様なコミュニティーの姿が刻み込まれていくことだろう。

子育てに配慮した親切リフォーム

一部の住戸を対象に、子育てに便利な工夫を随所に凝らしたリフォームを実施している。かわつるグリーンタウン松ヶ丘の、便利で安心な設備を紹介する。

半透明で光を取り込める間仕切り。子どもの気配を感じられる

取り外し可能な物干し用金物（左）や、差し込み口に感電防止を目的とした遮断扉を付けたコンセント（右）も、うれしいアイデア

玄関収納にはベビーカーを畳んで入れられる（上）。住棟のエントランスに設けられた専用のベビーカー置き場（下）はシルバーカーにも対応可

鶴ヶ島市社会福祉協議会主任の牧野郁子さん。子育てサロン「虹の会」やコミュニティカフェ「ひだまり」の立ち上げを裏で支えてきた。「社協の役割は、住民の皆さんのお手伝いをすること。子育て支援も、少子高齢化だからではなく、地域課題解決の取り組みの一つとして行っています」

かわつるグリーンタウン松ヶ丘では、自転車などの立ち入りを禁じて、安心して子どもを遊ばせておくことができる乳幼児プレイエリアを団地内広場に併設している

商店街の空き店舗を活用したコミュニティカフェ「ひだまり」

「かわつるグリーンタウン松ヶ丘」に近い商店街の中に、コミュニティカフェ「ひだまり」はある。川越市の主任児童委員の経歴を持つ上蓑礼子さんらの市民グループが、「地域の人たちが世代を超えて交流できる場をつくりたい」と考え、昨年10月、空き店舗を活用してオープンした。背景には、子育てに孤立感を持つ母親が増えていることへの危機感があった。

「ひだまり」を支える市民スタッフ。左から3人目が上蓑礼子さん

「ひだまり」のスペースの半分はカフェで、買い物帰りの高齢者などにランチや飲み物などを提供する。残りの半分はマット敷きで、母親たちが子どもとくつろぐことのできるキッズコーナー。互いは家具で緩やかに仕切られ、半分閉じて半分開いた、いわば付かず離れずの造りとなっている。毎週金曜午前には「みんなで遊ぼう」との呼び掛けで主に子育て世帯が集まる。「食」をテーマにした連続講座も開かれ、幅広い世代が集う。開設以来この4月末までの約半年間で延べ3100人余が利用した。

あるとき、店内で子どもが大声で泣いていると、居合わせた高齢者が「子どもの泣き声っていいね」と、うるさがるどころか喜んでくれたという。「お母さんはその言葉を聞いて、『怒らずに、そんなことを言ってくれる人もいるんだ』と、ほっとした様子でした」（上蓑さん）。これも、子育て世帯と高齢者の交流の小さな成果と言えるかもしれない。

「ひだまり」には、親子連れや若者、高齢者など、幅広い層の人が訪れる

団地近くの商店街の空き店舗を活用したコミュニティカフェ「ひだまり」のスペースの半分はキッズコーナーになっている

ハートアイランド新田
（東京・足立区）

働くお母さんを応援 0歳から小学生まで預かります

「産休明けですぐ働きたくても保育園に空きがない」「仕事で普段より迎えに行けるのが遅くなりそう」――。仕事と子育ての両立は思うようにいかないのが常だ。そんなとき助かるのが、きめ細かな子育て支援サービス。ハートアイランド新田は、民間団体などの運営による、団地内の住戸を使ったグループ保育室や団地内の施設を使った学童クラブなどが充実しており、赤ちゃんから小学生まで、子育て支援を受けることができる。

ハートアイランド新田は、生後2カ月から2歳までの乳児を預かる「グループ保育室」、幼稚園児を登園前と退園後に預かる「幼稚園送迎ステーション」、小学1年生から3年生までの子どもを夜8時まで預かってくれる「学童クラブ」など、子育てのための支援施設が充実している。いずれも、UR賃貸住宅の住戸や集会所の施設を利用したもので、団地の敷地内にあるため、子どもを安心して預けておくことができる。

ここでは、各事業者により子どもを0歳から小学3年生まで預かってもらえる。

0～2歳

ちゅうりっぷ保育室・新田

「ちゅうりっぷ保育室・新田」は、地元足立区で「保育ママ」として活動する野口洋子さんと阿久根政子さんが2010年12月に開いたグループ保育室。UR賃貸住宅の1階住戸をそのまま使い、0歳から2歳までの定員6人を、朝8時から夕6時まで3人体制で預かる。グループ保育室は保育ママがグループで保育に当たり、家庭的な保育ができるほか、保育者同士が互いに話し合いながら運営できるのがメリットだ。

UR賃貸住宅の1階住戸をそのまま利用した保育室。間取りは1Kの44㎡。ワンルームで見通しが利くため、安心だ

施設管理者で保育士を兼務する野口洋子さん（右下）。「汗をかいたらシャワーを浴びさせたり、お散歩の途中で立ち止まってじっと虫を見つめているようなときにはそのままにしておいたり。家庭と同じように、子どもに接しています」

「子どもが6人と少なく、大人の目が行き届くので安心です。少人数ながらも集団生活に慣れさせることができるのもいいですね」（施設を利用している山本奈美さん親子）

0歳～幼稚園児

キッズルーム
●親子サロン（0～3歳）
●幼稚園送迎ステーション（幼稚園児）

NPO法人ぷらちなくらぶが運営する「キッズルーム」では、二つのサービスを提供している。一つが「幼稚園送迎ステーション」で、登園前の朝7時半から9時半までと退園後の夕4時から7時までの時間帯に、幼稚園に通う子どもを預かる。この仕組みを利用すれば、保護者は子どもを幼稚園に通わせながら働きに出ることができる。もう一つが、朝10時から夕4時まで無料で開設する「親子サロン」。0～3歳の子どもを自由に遊ばせながら、親同士がおしゃべりしたりできるスペースだ。

団地内にある「キッズルーム」の前には歩行者専用のゆったりとした緑の空間が広がる。ベビーカーや抱っこで子どもを連れ歩いたり、幼稚園帰りの子どもを遊ばせたりと、子育て世帯が自然と集まる（写真奥がキッズルーム）

近隣の幼稚園と提携して運営する「幼稚園送迎ステーション」。送迎と保育の様子

2歳の息子が0歳のころからキッズルームを利用してきたという藤木有紀子さん。「キッズルームのおかげでママ友がたくさんできました。知り合いが多いと安心できます」

小さな子どもを遊ばせながら母親同士が交流できる「親子サロン」

「親子サロン」では、利用者が自ら企画するいろいろなイベントも開催される。右上の写真はオープンイベントの様子。「Beauty Event」と名付けられた出張ネイル・まつ毛パーマ講座といった“女性としての母親”を対象にすえたユニークなイベントも（写真左下）。

（写真：NPO法人ぷらちなくらぶ）

小学 1年生～3年生

ハートアイランド新田学童クラブ

保育園や幼稚園を卒園しても小学校低学年のうちは、一人で、あるいは子どもたちだけで家に置いておくのは心配だ。共働きの両親などに代わって小学生を預かるのが学童クラブ。NPO法人ワーカーズコープが運営する「ハートアイランド新田学童クラブ」は、学校からも家庭からも近いUR賃貸住宅の施設で、小学1年生から3年生までの子どもを、ここでは最長夜8時まで預かる。

荒川の広大な河川敷に面した団地の施設に子どもたちが三々五々集まってくる

「ハートアイランド新田学童クラブ」。広い室内には50人を超える子どもたち。静かになったかと思うと、床に座って宿題に励む。20分もすると思い思いのグループで遊び始めた。その姿は、兄弟姉妹に恵まれた大家族の暮らしの風景にも見える

現場責任者を務める遠藤元子さん。「ハートアイランド新田の施設は新しいし、面積も広い。窓も多く、明るく開放感があります。荒川の河川敷がすぐ近くで、自然と触れ合う機会が多いというのも気に入っています。フローリングの部分と畳の部分とで別の使い方ができるのも便利ですね」と語る

URの子育て支援

全国に広がるURの子育て支援

UR都市機構では公団住宅の時代から、子どもがのびのびと安全に遊べる公園や広場、子どもを見守るコミュニティー、子育て支援施設など、子育てにやさしい環境づくりを大切にしてきた。その取り組みは少子化のいま、一層重要となってくる。今回取り上げた2団地以外にも、全国の団地で様々な子育て支援の取り組みが進められている。ここでは、その一部を紹介する。

UR賃貸住宅は豊かなオープンスペースや様々な公共・公益施設を備えており、子育てにはもともと適した環境を持っている。こうした良好なストックを積極的に生かしていこうと、UR都市機構では2010年7月から、子育て支援、高齢者支援に取り組む専門組織（現「ウェルフェア推進チーム」）を設け、制度概要やサービス内容の勉強、施設見学を行いながら、暮らしやすいまちづくりを目指している。また、子育て家族を応援する制度やサービスの充実などにも取り組んでいる。

例えば、一部団地では、通常家賃3カ月分の敷金を、キャンペーン期間中は2カ月分で入居できるようにしたり、子育て支援団体に対して、集会所の利用料を無償化したりしている。また、住戸の一部では、子育て世帯が使いやすいよう、住戸内外に様々なアイデアを取り入れたりフォームを行っている。

②東雲キャナルコートCODAN
（東京都江東区）

団地の中央を通るS字アベニューでは、フリーマーケットやクリスマスの催しなど子育てファミリー向けイベントが盛りだくさん

子育て支援に取り組む全国のUR賃貸住宅（一部）

①	芦花公園	東京都世田谷区	保育園・幼稚園・学童保育・保育ママ・キッズルーム・小学校・中学校・小中一貫校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設・近居5%割引※
③	ハートアイランド新田一～四番街	東京都足立区	保育園・幼稚園・学童保育・保育ママ・キッズルーム・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・近居5%割引※
④	品川シーサイドビュータワー	東京都品川区	保育園・幼稚園・学童保育・保育ママ・小学校・中学校・小中一貫校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・近居5%割引※
⑤	国立富士見台	東京都国立市	保育園・幼稚園・学童保育・保育ママ・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設・近居5%割引※
⑦	ベイシティ本牧南	横浜市中区	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設・近居5%割引※
⑧	中山駅前ハイツ	横浜市緑区	保育園・幼稚園・学童保育・保育ママ・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設・近居5%割引※
⑨	ビーコンヒル能見台サウスヒル	横浜市金沢区	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・近居5%割引※
⑩	プロムナード矢部	横浜市戸塚区	保育園・幼稚園・学童保育・保育ママ・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設・近居5%割引※
⑪	霧が丘グリーンタウン	横浜市緑区	保育園・幼稚園・学童保育・保育ママ・キッズルーム・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設・近居5%割引※
⑫	鷹尾	神奈川県厚木市	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・近居5%割引※
⑭	サンヴァリエ日吉	横浜市港北区	保育園・幼稚園・学童保育・保育ママ・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設・近居5%割引※
⑮	コンフォール霞ヶ丘	埼玉県ふじみ野市	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・近居5%割引※
⑯	みさと	埼玉県三郷市	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設・近居5%割引※
⑰	かわつるグリーンタウン松ヶ丘	埼玉県鶴ヶ島市	保育園・幼稚園・学童保育・キッズルーム・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設・近居5%割引※

赤色:団地内または隣に所在　黄色:団地から1km以内に所在

保育園　幼稚園　学童保育　保育ママ　キッズルーム　小学校　中学校　小中一貫校　小児科等の医療施設　子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設　スーパー等の買い物施設　近居5%割引※

※子育て世帯、高齢者世帯等と親族とが同一団地に居住する場合、家賃を5年間、5%割り引きする優遇制度

子育て支援に取り組む全国のUR賃貸住宅（一部）

⑱	アーバンラフレ志賀	名古屋市北区	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
⑳	アーバンラフレ星ヶ丘	名古屋市千種区	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
⑳	アーバンラフレ虹ヶ丘西	名古屋市名東区	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
⑳	アーバンラフレ虹ヶ丘南	名古屋市名東区	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
⑳	アーバンラフレ虹ヶ丘中	名古屋市名東区	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
⑳	アーバンラフレ虹ヶ丘東	名古屋市名東区	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
㉑	藤山台	愛知県春日井市	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
㉑	岩成台	愛知県春日井市	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
㉑	高森台	愛知県春日井市	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
㉑	中央台	愛知県春日井市	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
㉑	リバピア中央台	愛知県春日井市	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
㉑	岩成台西	愛知県春日井市	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
㉓	富田	大阪府高槻市	保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
㉔	泉北鴨谷台三丁	大阪府堺市	保育園・幼稚園・小学校・中学校・小児科等の医療施設・子育てサロン・図書館・生涯学習センター等の公益施設・スーパー等の買い物施設
㉖	アーベインルネス別府	福岡市城南区	保育園・幼稚園・小学校・中学校・小児科等の医療施設・スーパー等の買い物施設・近居5%割引※

赤色:団地内または隣に所在　黄色:団地から1km以内に所在

⑲アーバニア志賀公園
（名古屋市北区）

団地に隣接して周産期母子医療センターや緑豊かな志賀公園があり、安心して出産と子育てができる環境が整っている

㉕アーベインルネス梅光園
（福岡市中央区）

団地内のプレイロットや、集会所を改修して作ったキッズルームは子どもと子育て世帯の交流の場として活用されている

㉒アルビス旭ヶ丘
（大阪府豊中市）

子育て集いの広場事業「あっぷるはうす」。四季折々のイベントが開催され、活気にあふれている

⑥八千代ゆりのき台 パークシティ
（千葉県八千代市）

集会所で開催される「子育て広場」。子どもを遊ばせながらママさん同士の交流が深まる

⑬サンラフレ百合ヶ丘
（川崎市麻生区）

3～9人の少人数保育で、家庭的な温かさが特長の「保育ママ」。市の認定を受け、団地内の保育ママの自宅で園児を預かっている。公園への散歩が日課

UR都市機構では「コソダテUR」と名付け、全国の団地で子育て支援の充実に力を入れている。その内容は、住戸内のリフォーム、集会所など共用部の活用、家庭的保育事業や子育て支援施設の誘致まで、多岐にわたる。

詳しくは専用ホームページでチェック！

コソダテUR　検索

ひよし園（横浜市港北区）

しののめ園（東京都江東区）

（本ページの施設写真提供：NPO法人フローレンス）

空き家を活用した「おうち保育園」公共性高いURがあってこその事業

UR都市機構は、市や区などの地元自治体、団地の自治会、NPO法人などと連携しながら、様々な子育て支援に取り組んでいる。その支援はどう評価され、何を期待されているのか――。育児と仕事の両立を図るための支援事業を展開するNPO法人フローレンス代表理事の駒崎弘樹さんに、同法人の取り組みと、URへの期待を聞いた。

特定非営利活動法人
フローレンス代表理事
駒崎弘樹氏

1979年生まれ。99年慶應義塾大学総合政策学部入学。在学中に学生ITベンチャー経営者として、様々な技術を事業化。卒業後「地域の力によって病児保育問題を解決し、育児と仕事を両立するのが当然の社会をつくれないか」と考え、ITベンチャーを共同経営者に譲渡し、フローレンスをスタート。日本初の「共済型・非施設型」の病児保育サービスとして展開。現在、東京23区、千葉県浦安市、川崎市、横浜市の働く家庭をサポートしている。

フローレンスが取り組む事業の一つは待機児童問題の解消です。これは主に、都市部の0～2歳児の問題と言えます。都市部は地価が高く認可保育園を整備できないという状況が、その背景にあります。

しかし国の基準で定員20人以上と定める認可保育園にこだわらなければ、それほど規模は必要としません。もっと規模が小さくていいなら、もっと整備できるはずです。定員10人前後の保育園をうまく運営できれば、国の政策を変えることができる、そう考えました。

これが、空き家を活用した「おうち保育園」です。「おうち」の調達先はUR都市機構を頼って、東雲キャナルコートCODANで第1号を開設しました。定員9人に対して20人を超える申し込みが寄せられたうえ、満足度に関しても非常に高い評価を受けました。その後、品川シーサイドビュータワー、サンヴァリエ日吉でも実施し、いずれも高評をいただいています。

これらの試みをもとに「おうち保育園」の事業化を国に提案したところ、「希望の光になるのでは」と前向きに取り組んでいただき、国会で小規模保育サービスとして事業化されることが決まりました。こうした事業を現実にすることができたのも、UR都市機構あればこそだと思っています。

日本一の大家さんが子育て支援に前向きであるというのは大変ありがたいことです。例えば空き家の情報をまとめて発信して子育て支援NPOに橋渡しするなど、情報のプラットフォームづくりに組織を挙げて取り組んでいただければ、「おうち保育園」をもっと多くの場所で展開できます。今後のURの取り組みに期待しています。（談）

品川シーサイド園（東京都品川区）

募集

全国団地景観サミット2012

UR賃貸住宅『団地景観フォト&スケッチコンテスト』

前回受賞作品

フォト大賞　「手伝いたいの」
田中 由香さん／西上尾第二（埼玉県）

スケッチ大賞　「冬の朝」
朝岡 満子さん／辻堂（神奈川県）

フォト最優秀賞　「黎明」
長 吉秀さん／四箇田（福岡県）

スケッチ最優秀賞　「みどりあふれる我が団地」
正田 芳枝さん／小山田桜台（東京都）

UR都市機構は、今年で5回目となるUR賃貸住宅『団地景観フォト&スケッチコンテスト』を開催いたします。2012年のテーマは「暮らしの舞台～団地の風景～」です。

全国で約1700あるUR賃貸住宅には、人がふれあう暮らしの風景や、年月を経て育まれた緑豊かな環境があります。本コンテストを通じて、これらの団地にある美しい景観や営みの舞台が、地域の財産として価値あるものであることをご理解いただき、団地にお住まいの方々はもちろん、地域にお住まいの方々とその価値を共有したいと、UR都市機構は考えています。

UR賃貸住宅というステージで営まれる世代を超えたふれあいや、笑顔あふれる暮らし。四季折々の新しい表情を見せてくれる景観や、時とともに磨かれてゆく建築物としての個性。そんな団地ならでは魅力を表現した写真やスケッチを募集いたします。

多くの皆さまからのご応募をお待ちしております。

募集概要

応募期間
平成24年8月20日（月）～
平成25年2月20日（水）

賞
大賞（商品券15万円分）
最優秀賞（商品券10万円分）
優秀賞（商品券4万円分）など

審査員（敬称略）
馬場 正尊（Open A代表／建築家）
ハービー・山口（写真家）
下田 昌克（絵描き）
池邊 このみ（ランドスケーププランナー）

応募資格
どなたでもご応募いただけます。ただし、プロの写真家や画家の方はご遠慮ください。

応募方法
郵送にてご応募ください。
◎応募用紙に必要事項を記入のうえ、作品に添えてご応募ください。
◎応募用紙は、UR都市機構ホームページからダウンロードできるほか、全国のUR営業センター等で配布しています。

送付先（お問い合わせ先）
〒103-0027
東京都中央区日本橋1-5-3 5階
「全国団地景観サミット」事務局宛
TEL：03-3272-6098
10:00～17:00（土日、祝日を除く）

応募要項など詳しくはこちらでご確認ください。

UR都市デザイン　検索

http://www.ur-net.go.jp/urbandesign/

「UR PRESS」WEB版もお楽しみください！

内容充実の「UR PRESS」WEBサイト。特集の巻頭インタビューや記事のオリジナル動画なども掲載しています。ぜひサイトもご覧ください。

UR PRESS　検索

http://www.ur-net.go.jp/publication/web-urpress/

ご覧ください！ URのツイッター

UR都市機構のツイッターでは、イベント、キャンペーン、募集情報などをタイムリーに発信しています。ぜひアクセスしてみてください。

http://twitter.com/UR_TOSHIKIKOU

文豪の愛した街

池波正太郎

（1923〜1990）

浅草・本所・両国

鬼平犯科帳の舞台を歩く

文＝川岸 徹　写真＝大髙和康

二ツ目橋の「五鉄」という軍鶏なべ屋へ入って熱い酒をのませると、平蔵が何を問うたわけでもないのに、油紙へ火がついたように、ぺらぺらとしゃべりはじめた。

『鬼平犯科帳　第1巻　本所・桜屋敷』（文藝春秋）

［かど家］

東京都墨田区緑1-6-13
TEL: 03-3631-5007

江戸時代も半ばを過ぎた1787年。天明の大飢饉の影響で荒れていた江戸の町に、凶悪犯罪を取り締まるため、一人の男が「火付盗賊改方長官」に任命された。この男こそ長谷川平蔵――すなわち、池波正太郎が生み出した「鬼平」である。

昭和の文豪・池波正太郎は、浅草の生まれ。少年時代の遊び場は浅草や上野が中心だったが、当時は治安の悪い一帯として有名だった本所や両国にも足を延ばした。学校を出て〝株屋〟の仕事を始めると、吉原で遊蕩（ゆうとう）にふけることも多かったという。

そんな池波正太郎の人物像は、鬼平の姿とぴたりと重なる。鬼平は仕事に就く前、本所・両国界隈の無頼漢の頭として遊蕩三昧の日々を送っていた。その時の経験から人間の本質を見抜く目や鋭い推理力を育み、やがて犯罪者から恐れられる存在になったと設定されている。

浅草から本所、両国界隈を歩くと、『鬼平犯科帳』に描かれた場所が次々と現れる。小説に幾度となく登場するのが「浅草寺」。観光客で常にごった返しているが、その賑やかなムードは物語の舞台にふさわしい。近くには池波正太郎が通い詰めた喫茶店「アンヂェラス」がある。池波正太郎は必ず、水出しの〝ダッチ・コーヒー〟を注文し、時には梅酒を混ぜて飲んだという。

隅田川を越えた本所エリアには、鬼平の剣友・岸井左馬之助が寄宿していた「春慶寺」や、鬼平が舟でたびたび行き来する「大横川」がある。大横川は現在、親水公園として整備されており、暑い夏に涼を取りながら散策を楽しむことができる。

そして鬼平は、美食家でもあった。小説では鬼平が「五鉄」という店で軍鶏（しゃも）鍋を食べる様子が描写されている。その店のモデルといわれるのが、両国駅近くにある「かど家」。6代目女将の馬場英美さんに聞くと、「先代の女将の頃、池波先生がよくいらしたそうです。軍鶏鍋をつつきながら、お酒をたくさん召し上がって…」とのこと。鬼平は池波正太郎自身――そう強く感じた〝鬼平散歩〟だった。

［浅草寺］

その人に出会ったのは浅草観世音（金龍山・浅草寺）の境内であった。おまさは、山之宿のほうから境内へ入り、本堂へ参詣をすませ、仁王門へ向って歩きはじめた。

『鬼平犯科帳　第5巻　女賊』（文藝春秋）

東京都台東区浅草2-3-1

［大横川］

横川を北へ……入江町の河岸を左にながめつつ、舟はゆっくりとすすむ。やがて、右手に法恩寺の大屋根が見え、そして、舟は出村町へさしかかった。

『鬼平犯科帳　第1巻　本所・桜屋敷』（文藝春秋）

東京都墨田区

［春慶寺］

十七歳の折に左馬之助は好きな剣術の修行をおもいたち、江戸へ出て、押上の春慶寺へ寄宿し、本所の高杉道場へ通い、ここで、長谷川平蔵と親交をむすぶにいたった。

『鬼平犯科帳　第8巻　明神の次郎吉』（文藝春秋）

東京都墨田区業平2-14-9

［アンヂェラス］

帰りぎわには「アンヂェラス」へ寄って、ダッチ・コーヒー。これはもう、習慣のようなものになってしまった。

『散歩のとき何か食べたくなって』（新潮社）

東京都台東区浅草1-17-6
TEL: 03-3841-2208

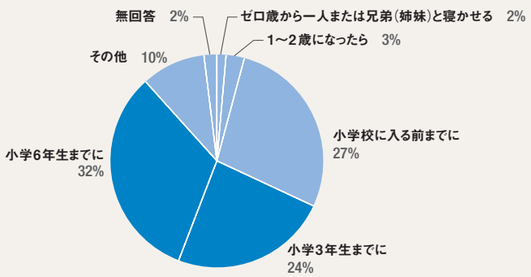
UR ［ユーアール・リサーチ］ RESERCH

『UR PRESS』では、毎号特集に関連したアンケート調査を実施し、集計結果を誌面で発表します。vol.30は「子育て」がテーマ。

アンケート　3193人
回答者数　（男性：2605人、女性：588人）
調査方法　インターネット調査
実施機関　日経BPコンサルティング 2012年6月調査

寝室は小学生のうちに別部屋に

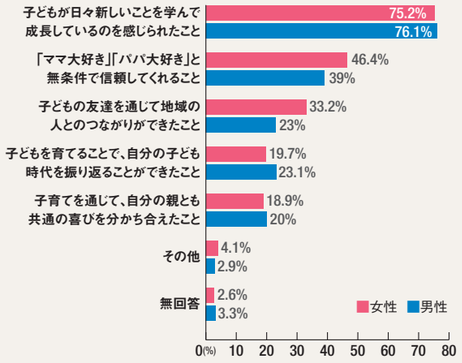
Q1 子どもが何歳になったら親と別部屋で寝かせたい（寝かせている）ですか。（一つだけ）



何歳から子どもを別部屋で寝かせるべきか…。これはご家庭の方針によって様々ですが、子どもの自立を目的として「小学生のうちに」とお考えの親御さんが多いようです。次に、「小学校に入る前までに」との回答が続きました。そのほか、「タイミングは子どもに任せる」という意見も。住環境により、別部屋が難しいという方もいるようです。

子どもの成長が一番の喜び！

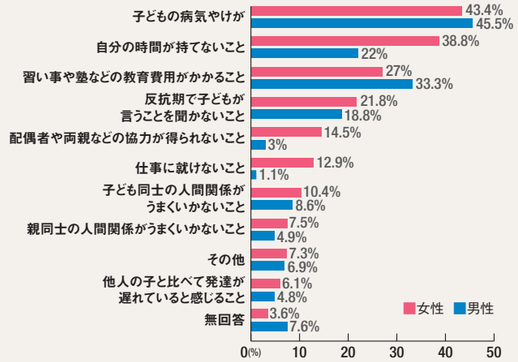
Q2 子育てをしていて、うれしい（うれしかった）ことは何ですか。（三つまで）



子育ての醍醐味はやはり子どもの成長を感じること。男女共に他を引き離す結果です。これ以外に、子どもの友達を通じて地域内で交流を図れることに女性（母親）が満足感を得ていることに特徴が見られました。近所の保育施設などで、育児の悩みを相談し合ううちに良好な人間関係が生まれるのかもしれません。「子育てを通じて家族の関係がより深まった」という素敵なコメントも寄せられました。

病気やけがが心配……

Q3 子育てをしていて、辛い（辛かった）ことは何ですか。（三つまで）



子育ては楽しいことばかりではありません。時には辛く感じることもあります。子どもの命にかかわる病気やけがは一番の心配事ですね。女性（母親）は子どもと接する時間がどうしても長くなるので、自分の時間が持てないことや仕事に就けないことにストレスを感じることが多いようです。一方、子どもが成長するにつれて必要となってくる養育費に男性がプレッシャーを感じている様子もグラフから読み取れます。

編集後記

「ただ、伸行の喜ぶ顔が見たくって」――今回の特集、辻井いつ子さんの取材で出合った心に残る一言です。

親は子どものためなら、苦労をいとわず、努力を惜しまず、大変なことを大変とも思わず、どんなことでも頑張れるものなのかもしれません。しかし、自分たちだけでは解決できないことがたくさんあるのもまた事実。そんな時、団地で、地域のコミュニティーで、そしてまち全体で支えられることとは何か。

少子化が社会問題になっている昨今、本号ではUR都市機構が取り組む子育て支援を特集し、ハード・ソフト両面から、時代の要請に応える団地の姿を取り上げました。少しでも皆さまの参考にしていただければ幸いです。

私たちがつくった生活空間で、皆さまに笑顔で暮らしていただけることを願っています。

プレゼント付き CROSS WORD PUZZLE ［クロスワードパズル］

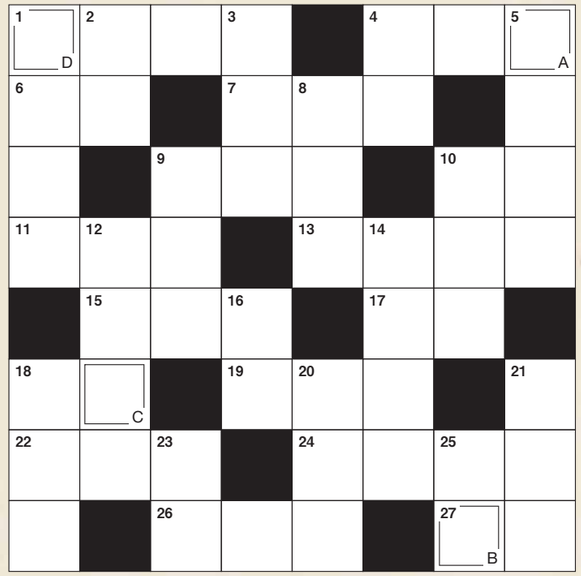
クロスワードパズルの解答をアンケートはがきに記入して応募ください。
抽選で10名の方に辻井いつ子さんの著書『今日の風、なに色?』をプレゼントいたします。

タテのヒント

1 これのファンは鉄男や鉄子と呼ばれます
2 ピンから○○まで
3 席を確実に確保する方法
4 ナイアガラの名物といえば?
5 避暑に最適の地
8 洋食の料理長
9 ベッドが2つある部屋
10 神社の入り口に立っている
12 夏の夜おなじみの怖～い話
14 新生児の第一声
16 子を千尋の谷に落とすとか
18 夏の夜空の彩り
20 盆踊りや祭りに着て行きたい着物
21 糀（こうじ）醸は○○○より芳し
23 タクシーのは自動で開く
25 方便で使うことも…

ヨコのヒント

1 適材○○○○で人材活用
4 盆踊りの音頭を取る楽器
6 女子の太公望も急増
7 怖くても入る?「おばけ○○○」
9 椅子とセットの家具
10 きれいな花にある触ると痛いもの
11 長良川の有名な漁法
13 窓辺でチリリン
15 高額領収書に貼る
17 勝利のサインは?
18 美白を保ちたい人は焼かない
19 ○○○と述語で文章を作る
22 日本風ウォーク イン クローゼット
24 歌詞だけ面白く替えた歌
26 恋すれば○○○もエクボに
27 夏は、ざるや、もりが人気の食べ物



Answer　A　B　C　D

Present

抽選で10名様にプレゼント!

辻井いつ子さん 著『今日の風、なに色?』（アスコム）

応募要項

UR PRESS vol.30「読者プレゼント」への応募は、本誌に同封の応募はがきにクロスワードパズルの解答と必要事項をご記入のうえ郵送ください。

応募の締め切りは 2012年10月31日（当日消印有効）です。

当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。